

## センター長挨拶

小玉 重夫

(センター長・基礎教育学コース)

昨日、中釜洋子先生がお亡くなりになったという急な知らせがありました。中釜先生は、今回の研究ではユニット3「生き方の学習ユニット」で、特に心理教育の領域で中心的な役割を担って下さいました。本日はその観点から話題提供をお願いしていましたが、それがかなわなくなってしまいました。心より哀悼の意を表させていただきます。中釜先生のプロジェクトは、今後も「生き方の学習ユニット」の中でメンバーが引き継いで進めていくつもりです。本日の私の指定討論では、中釜先生が話をされようとしていたことの一部も紹介させていただきながら、コメントしたいと思います。

カリキュラムとは、一般には学習指導要領に象徴されるような教育内容の組織の編成原理としてのカリキュラムという考え方や、本学の佐藤学先生が特に提唱されている「学びの経験の総体」としてのカリキュラムという二つのとらえ方があります。私たちは、この二つのカリキュラムの視点を取り入れながら、その両者の対立を超えうるようなカリキュラム・イノベーションの可能性と条件について、研究を進めています。

イノベーションの視点には、カリキュラムを誰が決めるのか(Who)、カリキュラムの中で何が学ばれるのか(What)、どのように学ばれるのか(How)の三つがあります。

誰がカリキュラムを決めるのか(Who)については、大桃・村上報告の中でお話があると思います。それから、基幹学習ユニットから、どのように教えるのか、どのように学ばれるのか(How)に関しては秋田報告で、特にメタ文法能力という新しい考え方が紹介されるとともに、それについての実践的な報告が行われると

思います。

何が学ばれるか(What)は、まさにカリキュラムの内容そのもののイノベーションにかかわる部分で、「生き方の学習ユニット」と「社会参加の学習ユニット」の二つで研究が進んでいます。それぞれ本田報告、中釜報告において話題提供がなされる予定でしたが、中釜先生の部分は私から最後に紹介させていただき、本田先生に中心にお話をいただきます。

この研究は来年が3年目で最終年度となります。昨年度は主に理念的・理論的な部分を中心に議論し、それを踏まえて2年目は、附属学校との連携の中で具体的な授業づくりと実践の提案づくりが進んでおります。最後に、附属の榑府先生と村石副校長先生から、附属と大学との連携の中で具体的な実践の提案についてコメントをいただきます。

本日は、カリキュラムのイノベーションについて、具体的な実践に基づいて活発に議論を深める場にできればと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。